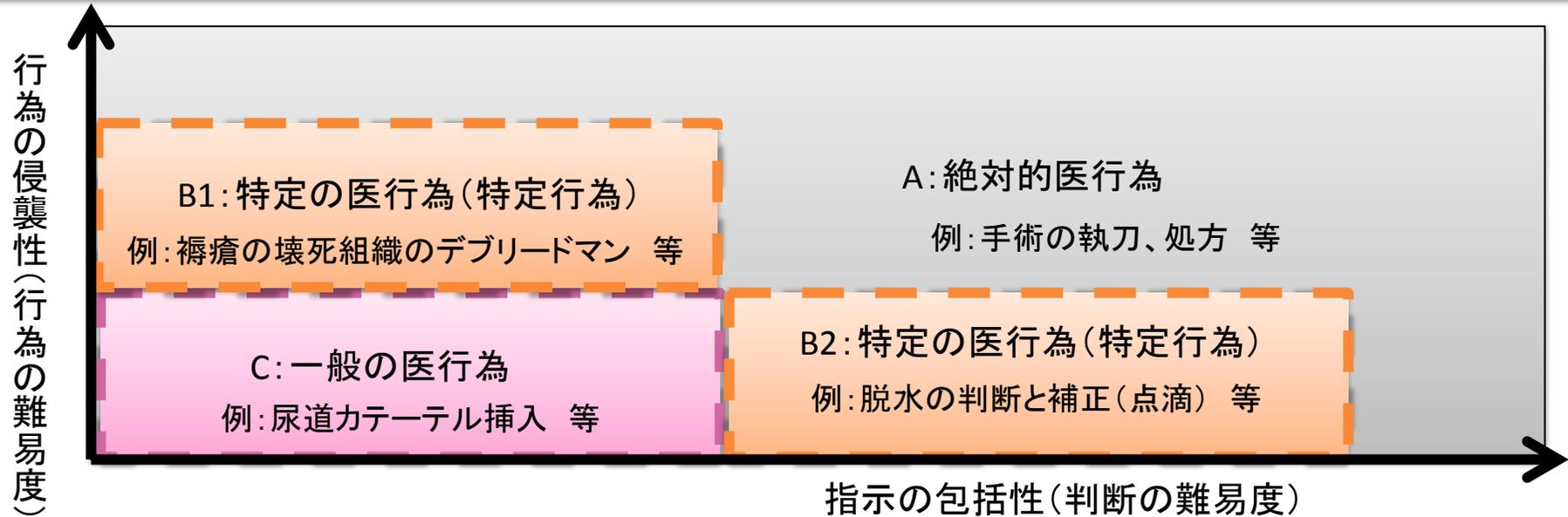


# 特定行為について(基本的な考え方)のイメージ

○「特定行為」については、医行為の侵襲性や難易度が高いもの(B1)、医行為を実施するにあたり、詳細な身体所見の把握、実施すべき医行為及びその適時性の判断などが必要であり、実施者に高度な判断能力が求められる(判断の難易度が高い)もの(B2)が想定されるのではないか。



	行為の概要	実施の条件
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行為・判断の難易度が著しく高いもの(手術の執刀、全身麻酔の導入等)</li> <li>・法律上「診療の補助」に含まれないことが明確なもの(処方等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師のみが実施</li> </ul>
B1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行為の侵襲性が相対的に高く、行為の難易度が高いもの(褥瘡の壊死組織のデブリードマン等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認証を受けた看護師が実施</li> </ul>
B2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施者の裁量性が相対的に高く、高度な判断能力を要する(判断の難易度が高い)もの(脱水の判断と補正(点滴)等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師の具体的指示の下に、安全管理体制を整えた上で看護師一般が実施</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行為の難易度、判断の難易度ともに看護師一般が実施可能なもの(尿道カテーテル挿入、発熱時の解熱薬投与等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師一般が実施</li> </ul>